

ウ 実践事例③C校（第4学年）



《6月》

学級の児童は、どのステップに当てはまるかな？確かめてみよう！
さらに、ステップアップするための手立ては…？

※「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」は、トップページからダウンロードできます。

「授業改善ステップ表」

授業に、学習のゴールまでの見通しを持たせていますか？
学習への目的意識や必要性は持っていますか？

ステップ①	ステップ②	ステップ③
本時のめあてに沿って、一歩目のめあてのゴールを見通している。	単元のめあてに達するために学習計画に沿って、身に付けるべき力を意識しながら、単元のゴールを見通している。	単元のめあてに達するために学習計画に沿って、身に付けるべき力を意識しながら、単元のゴールを見通している。

「手立て一覧表」

手立て一覧表	A	B	C	D
学習の目的やゴールを児童に示す。				
対話を通して、考えをより確かなものにする。				
理由や根拠を挙げながら、学びを振り返る。				

★本単元における授業改善の流れ（単元前）

授業改善の流れ	C教諭の意識	「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」の活用																				
<p>(1)</p> <p>児童の実態把握</p>	<p>学習の目的とゴールを児童に示したい。</p> <p>対話によって、よりよいものに見直せるといいな。</p> <p>考える力があるから考えを再構築する場を設けよう。</p> <p>何を、どうしたからできるようになったか自覚させたい。</p>	<p>各観点のチェック欄の整理（C教諭）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ステップ①</th> <th>ステップ②</th> <th>ステップ③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td>✓</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>✓</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		ステップ①	ステップ②	ステップ③	A		✓		B			✓	C		✓		D	✓		
	ステップ①	ステップ②	ステップ③																			
A		✓																				
B			✓																			
C		✓																				
D	✓																					
<p>(2)</p> <p>授業の改善点と目指す児童の姿の洗い出し</p>	<p>今のステップと、次の段階のステップを見比べると、今の授業の改善点分かるよ。目指す児童の姿が具体的に設定できるね。</p> <p>Bは、既にステップ③だ。次の単元でも、③を保ちたい。</p>	<p>各観点で目指す児童の姿（次のステップ）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>③</td> <td>身に付けるべき力を意識して単元のゴールを見通す</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>③</td> <td>課題解決の方策や道筋を修正したり応用したりする</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>③</td> <td>対話を通して、考えをより確かなものにする</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>②</td> <td>理由や根拠を挙げながら、学びを振り返る</td> </tr> </tbody> </table>	A	③	身に付けるべき力を意識して単元のゴールを見通す	B	③	課題解決の方策や道筋を修正したり応用したりする	C	③	対話を通して、考えをより確かなものにする	D	②	理由や根拠を挙げながら、学びを振り返る								
A	③	身に付けるべき力を意識して単元のゴールを見通す																				
B	③	課題解決の方策や道筋を修正したり応用したりする																				
C	③	対話を通して、考えをより確かなものにする																				
D	②	理由や根拠を挙げながら、学びを振り返る																				
<p>(3)</p> <p>手立てを取り入れた授業実践（単元）</p>	<p>「手立て一覧表」を見ると、ステップアップのための手立てが、いくつか挙げられているけど、今回はこの手立てを取り入れてみよう！</p>	<p>取り入れる手立ての決定</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>g、h、j</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>h'</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>p'、s、u</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>w、w'</td> </tr> </tbody> </table> <p>単元前にcの手立てを講じることで、見えてくることありそう。</p>	A	g、h、j	B	h'	C	p'、s、u	D	w、w'												
A	g、h、j																					
B	h'																					
C	p'、s、u																					
D	w、w'																					

手立てを取り入れた授業の実際は、次頁から見るすることができます。

第4学年

「オリジナル通信を作って、わたしたちのことを伝えよう」

～相手や目的に応じ、経験したことや調べたことについて、段落の役割を考えながら記事を書いたり、書こうとすることの中心を明確にして見出しを付けたりする～

★本単元で育成を目指す資質・能力

- 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。 [知識及び技能] (1) ウ
- 書こうとすることの中心を明確にして見出しを付けたり、取材したことから理由や事例を挙げて書くことができる。 [思考力、判断力、表現力等] (1) ウ

★学習過程（書くこと）

題材の設定、情報の収集、内容の検討	相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確すること
構成の検討	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係を注意したりして、文章の構成を考えること
考えの形成、記述	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。
推敲	間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。
共有	書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見付けること。

単元前に、アンケートや事前テストを行うと、指導上の留意点が新たに見付かるかもしれないぞ (c)。



★単元計画

学習過程	時	主な学習活動	指導上の留意点 (記号：手立て一覧表)
単元前		○国語に関するアンケートと事前テストを受ける。	・アンケートでは、児童が経験した言語活動と、文章を書く際に気を付けていることを調査することで本単元の学習に生かす。また、事前テストでは、見出しを付ける力と段落相互の関係を捉える力を調査し指導する際の留意事項を明らかにする (c)。
一次 (つかむ)		1 ○通信のモデルを見て、通信の特徴を確かめ、学習課題を設定する。	・通信のモデルを提示し、単元を通して位置付けた言語活動のゴールをイメージさせ、学習への意欲を持たせる (h、h'、j、w)。
		2 ○学習課題を受けて、おおまかな学習計画を立てる。	・「話題決め」「取材」「記事書き」「割り付け」の事柄に分けて、活動時間と内容をグループごとに検討させて学習計画を立てさせる (g、j、w)。
		3 ○記事にする話題を出し合う。 ○記事にする話題を決め、取材の準備をする。	・話題を決めさせる際は、相手や目的を意識させて、書こうとする中心が明確になる話合いにさせる (j、w)。
二次 (深める)	 	4 ○取材をして、記事を書く。	・5W1Hを欠かすことなく書かせるようにする。
		5	・記事の構成メモを基に、文章の構成を意識させる。
		6 ○記事を基に、見出しを考える。	・記事例を基に見出しを付ける際のポイントを探らせ、ポイントを生かして記事の内容を明確に示した見出しを考えさせる (j、w、s、p')。
7 ○割り付けをし、通信を仕上げる。	・割り付けをする際は、個人の記事のレイアウトを考えて、読み手を引き付ける工夫をさせるようにする。		
三次 (まとめる)		8 ○オリジナル通信を読んで、感想を伝え合い、単元を振り返る。	・本単元で身に付いたことを振り返らせ、今後の学習や生活に生かすことを意識させる (w')。
単元後		○家族にオリジナル通信を紹介する。	・オリジナル通信に対するコメントをもらい、本単元の学習に対しての充実感を感じさせるようにする。

★手立てを取り入れた授業の実際

第一次
①② / 8

A 学習計画を基に、見通しを持たせて学ばせる。
g、h
単元を通して位置付けた言語活動のゴールをイメージさせ、学習計画を児童と共に立てる。

単元の始めに教師作成の通信のモデルを紹介し、通信を書くためにどのような学習が必要かを児童に考えさせました（資料 1、2）。通信のモデルを提示したことで、言語活動のイメージを児童に持たせることができ、取り組むべき学習活動を具体的に考えさせることができました。



資料 1 通信のモデル (教師作)

学習計画を立てる際には、思考を可視化させるために思考ツールを用いました（資料 3）。本単元では、Xチャートを用いて、「話題決め」、「取材」、「記事書き」、「割り付け」の事柄に分けて具体的な学習計画をグループごとに立てさせました。しかし、グループごとに学習計画を立てることで、全体での学習の足並みがそろわないことを懸念し、学習計画の大筋は、教師が提示することにしました。児童には、「話題決め」の際には、どのような活動をする必要があるのかを考えさせて、学習計画に追記させていく予定でした。しかし、「今のはやりを教える」（資料 3「 」部）など、留意事項を書くグループが多く見受けられました。

読んでみたい人気の本

みなさん、学級文庫の本を読んでいますか。

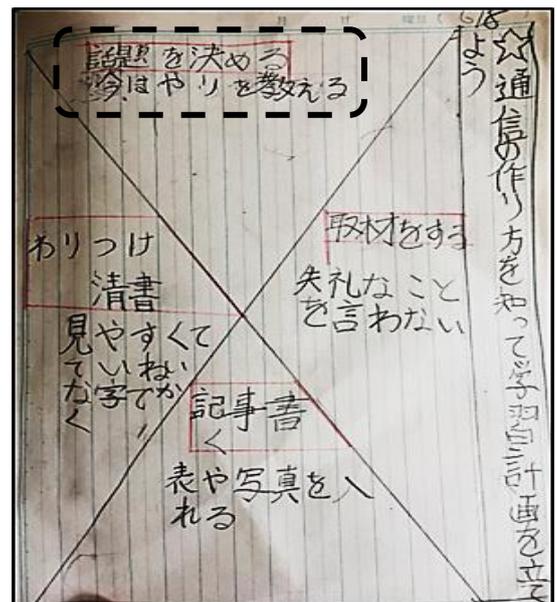
四年一組の学級文庫にある本で、どの本がすきかアンケートを取りました。いちばん人気があったのは、「こそあどの森」でした。

「こそあどの森」シリーズの本は、十二かんまで出ていて、作者は岡田淳さんです。

わたしも、十二かん全部読んで、思いもかけないことが、あたり前のように起きている、「こそあどの森」を読んでみたいです

すきな本ランキング		
1位	こそあどの森	19人
2位	びりっかすの神様	15人
3位	きまぐれロボット	8人

資料 2 記事の一部



資料 3 学習計画を立てる際に取り入れたXチャート

グループごとにXチャートで考えた内容は、教師が配付した学習計画表に追記させました（資料4 斜線部）。ただし、追記をさせたものの、教師が意図した児童が主体的に立てる学習計画にはなりません。学習計画は見通しを持って学習を進めるために不可欠なものであるため、学習計画の立て方に改善の余地があると感じました。

⑥仕上げる	⑤せい書する	④わりつけをする ②	③記事を書く ①	②取材をする	①話題を決める
目立たせたい文字やイラストに色をつけたり、通信を読みなおしたりします。	記事にまちがいがなかったしかめて、ていねいな字で書きます。	記事の大きさと、入れる場所を決めます。 ・見やすくていねいな字で書く。	取材した内容を生かして、文しょうを書きます。 ・表や写真を入れる。	話題について見学やインタビュー、アンケートをして、記事を書くための材料を集めます。	記事にする話題を決めます。 (運動会のこと、図書室のことなど)

二：通信作りの流れ

通信を作る大まかな流れをしようかします。



資料4 配付した学習計画

第一次
① / 8

B 課題解決に向けて、児童自らに考えさせる。

h' 学習への目的意識や必要性を実感させるために、言語活動の例を提示する。

単元を通して位置付ける通信のモデルを提示し、通信への興味を持たせると同時に、単元への意欲付けを図りました（資料 5）。その後、段落の構成や見出しなどに着目させ、通信の特徴を探らせて、児童と共に学習課題を設定していきました。



資料 5 通信の特徴を探る児童



通信には見出しがあるね。見出しがあると記事の内容が分かりやすいね。

写真があるから記事に書いてあることをイメージしやすいね。



記事には段落があって、段落ごとに何を書いているか分かるようにしてあるね。

通信の題名は読む人を引き付ける題名になっているのかな。



本単元の学習課題

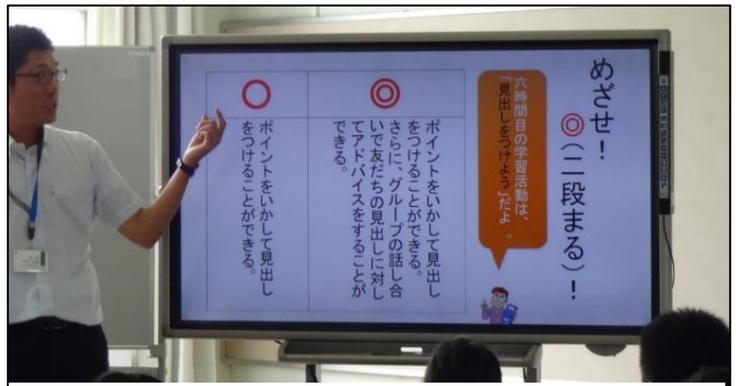
文章の構成を考えて経験したことや調べたことを分かりやすく書くために、段落の役割を組み合わせ記事を書いたり、言葉を集めて見出し考えたりして、お家の人へわたしたちのことを伝えるオリジナル通信を作ろう。

第二次
①②③⑥
／ 8

AD 1 単位時間のめあてに対して視点を持って振り返らせることで、次時の学びへの見通しを持たせる。

- j** 到達基準を児童に示すことで、単元の途中でも児童に目的意識や意欲を持続させる。
- w** 視点を与えて学習を振り返らせることで、次時の学習へ見通しを持たせる。

授業の始めに本時のめあてを提示し、それを基に本時の学びを自己評価させることは今までも取り組んできたことですが、児童にどのような基準で自己評価させるのか明瞭ではありませんでした。したがって、自己評価は児童によって評価が様々でした。そこで、本時のめあてを提示した後に、到達基準を示すことにしました（資料 6）。到達基準は本時のめあてと対応しており、十分達成とおおむね達成の 2 段階評価としました。



資料 6 到達基準の提示

これにより、児童は理由を明確にして到達基準に対する自己評価をすることができていました（資料 7）。さらに、次時では十分達成を目指したいと意欲を持って取り組む児童が見受けられました。また、到達基準を示すことは、教師にとっても指導すべきことが明確になり授業を組み立てやすくなったと考えます。

6 時目の到達基準

- ◎（十分達成）
見出しを付ける際のポイントを活かして見出しを付けることができる。さらに、グループの話合いで友達の見出しに対してアドバイスすることができる。
- （おおむね達成）
見出しを付ける際のポイントを活かして見出しを付けることができる。

児童の自己評価

今日は、記事の見出しを考えました。思いや伝えたいこと、記事の話題を入れて見出しを書きました。▶友達に伝わるアドバイスも言うことができたので ◎ です。

資料 7 到達基準と児童の自己評価

第二次
⑥ / 8

C 児童自らが考えを広め深めることができるように話し合わせる。

- s** 対話活動の際は、話し合いの流れを示し、話し合いの焦点化、活性化を図る。
- p'** 書いた記事を友達に紹介し、アドバイスし合いながら修正する場を設定する。

児童自らが考えを広め深めることができるように、話し合いの際には、各グループに話し合いの仕方をカード化して提示しました（資料9）。また、司会者、発表者、記録者は事前アンケートを基に、児童の意欲に応じて役割を与えました。

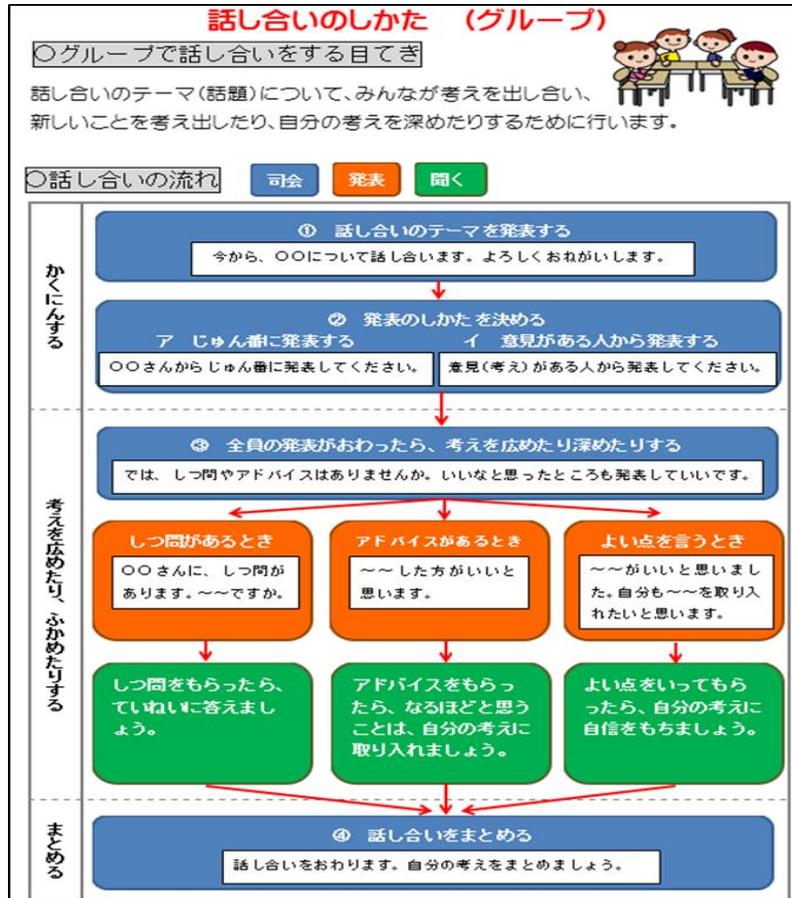
提示した話し合いの仕方には、グループで話し合うときの目的を「話し合いのテーマ（話題）について、みんなが考えを出し合い、新しいことを考え出したり、自分の考えを深めたりするために行う」と示しました。

また、話し合いの流れをフローチャートで示しました。まず、確認する際には、話し合いのテーマと順番を確認しました。次に、考えを広めたり深めたりする際には、質問、アドバイス、良い点に項目を絞り、話型を示すようにしました。ただし、児童が話型に縛られ話しにくくならないように、話型は参考程度とすることを伝えました。

このような手立てを講じたことにより、児童は戸惑うことなく話し合いを進め、テーマを深めることができました（資料8）。



資料8 互いの記事について話し合う児童



資料9 話し合いの仕方カード

第三次
⑧／8
単元後

D 学習の終末に、自らの学びや変容を自覚させる。

w' 互いのよさについて伝え合わせることで、学んだことを客観的に確認させるとともに、次の学びへの意欲を喚起させる。

単元で身に付けたことを生かして書いた児童のオリジナル通信は、児童の実生活に即しており、今後の学習にも生かしていくことができるものになりました（資料 10）。

グループごとにオリジナル通信を読み合わせ、互いのオリジナル通信のよさを伝え合わせました。その際は、付箋を活用しオリジナル通信に貼るようにしました。

さらに、単元後には家族に読んでもらい感想をもらうようにしました。家族からは「学校のことがよく分かる通信になっていて、楽しく読むことができた」などの感想をもらっています。このように、友達や家族から評価してもらったことで、次の学びへの意欲を高めることができていました。



資料 10 児童が作ったオリジナル通信

★本単元における授業改善の流れ（単元後）

授業改善の流れ	C教諭の意識	「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」の活用
---------	--------	-------------------------

(4)

取り入れた
手立ての
検討

- 学習課題を設定したことで、1 単位時間ごとに学習課題に立ち戻り、身に付けるべき力を児童に意識させて単元の学習を進めることができたため、主体的な学習へとつながった（**h'**）。
- 話し合いの仕方をカード化して児童に持たせたことで、授業を進めるにつれて話し合いが円滑になり、互いの考えを広げたり深めたりすることができるようになってきた（**s**、**p'**）。
- 単元を通した言語活動を位置付けて、常に言語活動のゴールを見据えながら学習させたことは、意欲の継続、学習課題の解決に向けた探求的な学びにつながった（**g**、**h**）。
- 1 単位時間ごとに評価基準を設定することは、児童の学習目標が明確になり、目的意識を持った学習へとつながることを感じた。しかし、学習のめあてを児童と共に設定する学習活動を仕組みと、評価基準の設定が困難であった（**j**、**w**）。
- 主体的な学習を促すために、学習課題及び学習計画を児童と共に考えたが、教師主導になりがちで、児童の主体性を高めることができなかった。
- 見出しの付け方や段落の役割を意識させることなどについて、もっと通信のモデルを活用させて学習を進める必要があった。
- 記事を書いたり見出しを付けたりする際に、言葉に着目させて、言葉の意味や働きなどを吟味させる必要があった。



観点 A、C、D は、単元前よりステップアップできているぞ！！
観点 B は、あと一歩かな。

単元前の児童（✓）と本単元での児童（◆）

	ステップ①	ステップ②	ステップ③
A		✓	◆
B		◆	✓
C		✓	◆
D	✓	◆	

児童に到達基準を示すことで、目的意識を持って探求的に学ぶ児童の姿が見られたぞ。指導すべきことも明確になり、授業を組み立てやすくなった（**h**）。でも、児童主体で到達基準を設定する方法については、検討が必要かな。

次の単元では、**観点 B**のステップアップに向けて、児童自ら考えさせるために、自己選択や自己決定の機会を設ける**I**の手立てを取り入れてみたい！

